

近世新吉原遊廓の 実像と現代

TVドラマやアニメなどで話題の遊廓―「吉原は光と闇の世界」、「金さえあれば身分の差なく扱われる解放空間」、はたまた「ファッションリーダーが活躍する文化の源」など、さまざまな見方がなされてきました。しかし、歴史学の方法による本格的な遊廓研究が始まったのは2010年代以降のことです。明らかになってきた遊廓と遊女たちの姿を「性と社会」の視点から振り返り、その歴史から何を学ぶべきかを考えます。

11 / 17 (月)

18:00～20:00 (17:30開場)

※終了時間は前後する可能性があります。

明治大学 駿河台キャンパス
グローバルフロント グローバルホール

登壇者：横山百合子氏

国立民族学博物館名誉教授
明治大学文学部ほか兼任講師



コーディネーター：水戸部由枝

(明治大学政治経済学部教授)

高峰修

(明治大学政治経済学部教授)

東京都生まれ。フランス社会科学高等研究院客員教授(2024年3月)。東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻博士課程修了。博士(文学)。専門は日本近世史、ジェンダー史。著書に『明治維新と近世身分制の解体』(山川出版社、2005年)、『江戸東京の明治維新』(岩波書店、2018年)、『遊女の「日記」を読む：嘉永二年梅本屋佐吉抱え遊女付け火一件をめぐる』(長谷川貴彦編『エゴ・ドキュメントの歴史学』岩波書店、2020年)他、共著・論文多数。2020年10～12月開催の国立歴史民俗博物館企画展「性差(ジェンダー)の日本史」では展示代表を務め、同企画展には2万人以上が訪れた。

参加無料・事前登録



下記 URL または

QRコードからお申込みください。

<https://forms.office.com/r/yChtgSS5pb>

主催 明治大学情報コミュニケーション学部ジェンダーセンター

問い合わせ先 gender@meiji.ac.jp